

NVC Monthly



寝屋川映像同好会会報

第101号(201712)

発行 竹田 幸男



第8回ビデオ作品発表会より 新井さん 昆陽池公園の水鳥たち

例会の窓

■平成29年11月例会

日時：11月8日(水) 13:30～

場所：市民活動センター4F こども部屋

出席者：新井 小笠原 佐伯 妹尾 竹田 谷

田淵 中村地区委員

欠席者：1名(50音順・敬称略)

例会次第

1. 報告・連絡・協議事項

(1) 大阪アマチュア映像祭 11/5

全17作の出品があり、寝屋川市映像協会からは小北氏、西田氏の二作を上映。

(2) 今年の第2回撮影会

・日時：11月16日 行先は、東福寺と半兵衛麩

・参加費3,500円予定(別紙参照)。

・10:30京阪東福寺駅集合 撮影→13:30分まで。その後、京都五条半兵衛麩で麩料理(昼食)

・参加予定者 竹田、新井、佐伯、谷

- (3) 第11回寝屋川映像フェスティバルは来年5月13日(日)
・10分以内の作品一人1作。
・今回からは著作権規制 今年中に出品作完成を。各自の予定作は。
- (4) プレミア研究会
・次回は3名でいつ?
- (5) 文化連盟理事会の報告(新井理事) 11月20日に理事の親睦旅行
- (6) 市民文化祭の結果 募集はなぜ9月末なのか。
・今回の場合は、内容を見て5つにグループ分けしたり、作品をBDディスクにまとめてそうごの音声レベルを合わせたり、それをチェックする日数が必要、従って9月末には作品を提出していただきたい。
- (7) 会報100号は現在編集中。今日までに発行できていない。
- (8) 11/12(日) ふれあいフェスタ 出展詳細説明 参加者募る。
- (9) 今年の映像協会忘年会 12月17日(日) 9:30合同例会後
11:30からがんこへ移動。 参加予定者 竹田、新井、佐伯、谷。
- (10) 映像同好会の新年昼食会は1月10日 11:30 喜多八8名予約済み。

3. 映写・研究発表

会員持参作品の映写

- (1) 新井さん 「はすの成長記録」 9分10秒
・ひとつのはすの花を毎日撮影し、4日後花が枯れてしまうまでの経過を撮影した作品。先月の映像をまとめられた。夜中も撮影されて懐中電灯で照明される等手間は大変だったと思います。
- (2) 谷さん 「冬の金剛山」 4分
・2009年~2017年本人の写真と思い出に残る雪景色を撮影された。ご本人にとって良い記念になるでしょう。

4. 各会員の最近の活動状況・情報交換・当面する問題点(省略)



石鎚登山を残念ながらあきらめた

小笠原 邦雄

伊予西条で勤務していた時、石鎚山にいつの日にか登山をしたいと思っていた。膀胱癌の術後、極端に体力が落ちているのを克服する為の訓練として、今年の6月に一念発起して自転車漕ぎとスロージョグをそれぞれ一時間と決めて始めた。自転

車は全く問題なくクリアー。スロージョグは非常に厳しかったが、徐々に時間を延ばして一時間を走りきることが出来るようになった。息切れもない。体調の回復は順調に思えた。

しかし、期待していた8月の検診の結果は、残念ながら腎臓の数値が極端に悪くなっていた。医者は怪訝な顔をしていた。事情を説明したら、「この暑い最中に無茶だ。自殺行為だ。」とのお言葉。「先生、30分では？」「駄目だ。」「15分では？」「駄目。」看護師がクスクス笑っていた。腎臓の数値は一旦悪くなれば元には戻らない。残念ながら、錦秋の石鎚山の撮影は幻に終わってしまった。余りにも悔しいので、これまでの思い出深い登山を振り返ってみることにした。

無線研勤務中、年に一度の集中登山に参加した。最初は大山の登山であった。馬の背で突然風が吹き、ヤッケが膨らんで飛ばされかけた他のパーティーの女性の襟首を、我がリーダーが咄嗟に掴み事なきを得た事を思い出した。相当下山した時、リーダーが「道がおかしい。申し訳ないが引き返す」と言い出した。かなり引き返して正規ルートへ戻った。

後にこの経験が大いに役立った。

穂高連峰の西の端「独標」の登山の際には、あまり自慢出来ない思い出がある。下りの際に、素早く駆け下りて、みんなが宿に帰り着くまでに、風呂に入ってから迎える事にして、それを達成する事が出来た。OB会であの時は凄かったですね、と、声掛けされて思い出した。

配電機器勤務の際、新入社員を連れて大山登山に出かけた。危険ではないと判断してのことだったが、天候が急変して危険を感じた。男女をペアとして下ることにした。男性が女性をサポートしてくれ無事下山することが出来た。後で知ったが、昼前には登山禁止が発令されていた。何事もなく良かった。

新潟営業所勤務の際、後輩社員2人を連れて谷川岳に登った。登りはロープウェイを使う事にし、下りを中心に考えての登山行であった。山小屋で休憩の後、下山を始めようとしたとき突然の豪雨が襲ってきた。下りはこちらと決め込んでいたが、大山でリーダーが引き返したことを思い出し、山小屋に入り、下りのルートを確認した。何と途轍もないルートを選んでいて、この時は豪雨であった事もあり、冷や汗ものであった。

唐松岳に登山した際は、不帰ノ嶮の向うに見える白馬岳にいずれの日にか登ると決めた。白馬登山は思ったより長丁場で疲れた。山小屋の近くで雷が轟き始め大急ぎで山小屋に駆け込んだ。山小屋の前から剣岳が見えた。早く来いよ！ と、呼んでいるように思えた。雄山には3回ほど登ったが、剣岳には一度の挑戦であった。登山基地である剣沢には3度入っている。剣山荘を4時過ぎに出発し前剣に取りつく。スロージョグの調子で快調に登る事が出来た。カニのタテバイ・ヨコバイも、「これが難所？」と思いながら一挙に頂上に着いた。残念ながら、先客が3人いた。明るく日は正午に室堂のバスターミナルで、称名の滝を目指した友人と落ち合う約

束であった。時間計算をして、翌日、再度挑戦して一番乗りを目指した。自信があったが、残念、一人の先客がいた。

表銀座縦走、仲房温泉、燕岳、大天井、槍ヶ岳、上高地のルート。燕岳から大天井までは展望が開け今回の目的地・槍ヶ岳を見ることが出来た。ジョギングをする前だったので、体力がひ弱で縦走に体力を使い切り、槍ヶ岳に登る時は簡単と思っていたが、足がガタガタ震えスリル満点だった。あくる朝、槍ヶ岳山荘からの日の出時のモルゲンロート（朝日に赤く染まる山）は素晴らしかった。

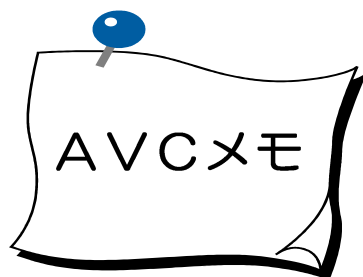
富士山登山は、資材部門の東日本責任者研修を、帝人アカデミー富士で実施した時の事であった。研修生の皆さんを送り出した後、帝人アカデミー富士の支配人と一緒に登った。

この研修施設の所在地は、富士裾野市である。富士山が一番美しく見える場所を選定して建設したとの事。世界の施設を視察した所、西洋では門から建物の玄関まで相当距離を取っており、それを参考に、同様の造りとしている。同時通訳の施設があるなど、素晴らしい施設であった。

玄関前で記念写真を支配人と一緒に撮り、タクシーで富士5合目に向かった。「支配人、この道は変では？」「富士のすそ野は広いから。」と支配人。突然「おい！どこへ向かっているんだ！」と怒鳴り声。一見客と違って富士駅にでも向かっていたと思われる。このタクシー会社にとっては、帝人のこの施設は上得意先。運転手は支配人と知りぶるぶる震え始めた。「運賃はいりません」と運転手。「そうはいかん」と支配人。次の研修の際、支配人から「タクシー会社社長に当施設の利用者に迷惑をかけていないだろうな。」と、厳しく注意したと聞いた。

登山は順調に進み、徳富蘆花の「自然と人生」の中の「此頃の富士の曙」の素晴らしい文章を思い出しながら、初日の出を拝んだ。頂上で運良くブロッケン現象に遭遇した。自分の影が前方の空間に大きく浮かび上がり、万歳をしたり、お道化て見たり、しばらく楽しむことが出来た。支配人と砂滑りを快調に走り降り、施設の風呂に入れてもらって帰途についた。

もう登山が出来ないと思うと寂しい。YouTubeの登山の動画でも観ながら思い出にふけろう。



「放電器」という道具と リチウムイオン充電池

竹田 幸男

ビデオカメラの電池を充電しているとき、ふと、何気な

く、以前は「放電器」という道具があったナ、ということ思い出しました。最近、カメラを買った人は、こんなことは知らないでしょうが。

今のビデオカメラ用の電池は、ほとんど「リチウムイオン充電電池」です。しかしその前は「ニッケルカドミウム充電電池」略して「ニッカド電池」が使われていました。このニッカド電池の欠点には「メモリー効果」と呼ばれる特性がありました。

これは、一杯に充電した電池を放電していき、最後まで使い切らないうちに使用をやめて、再度電を始めると、再度充電を始めた点を記憶（メモリー）して、次の放電の時はメモリーした点前後で電池容量がなくなる、という効果です。ですから電池は、いったん充電したら、空になるまで使い切りなさい、と、よく教えられたものです。明日は、撮影会、などと言うときは、なるべく一杯に充電した電池を持って行きたいものです。しかし、そのときに、まだ電池の容量は半分ぐらい残っている、などと言うときは、この放電器の出番になりました。

カメラから電池を外し、放電器にセットして放電します。あまり大きな電流で放電すると電池に良くないので、そこそこの時間がかかります。完全に放電が終わったことを見届けてから取り外して充電器にかけて充電します。かつてはこのような手間がかかったものです。

充電器と放電器が一体になったものもあったようです。まず、放電してから充電に移ります。自動的に移ったかどうか、記憶がありません。

その後ニッカド電池の後継となったニッケル水素電池はメモリー効果が少なくなり、リチウムイオン充電電池は、もう気にしなくても良くなりました。

有り難いことにリチウムイオン充電電池は、このような手間をかける必要がなくなったのです。充電が必要と思ったら、その場で、すぐに充電を始めればいいのです。あと、どれだけ電池の充電残量があるか、などとは、全く考える必要はありません。

このように、とても便利になったリチウムイオン充電電池ですが、やはり末永く伴侶になっていただくためには、守らねばならない掟があります。

それは、大事なリチウムイオン電池様が、長く伴侶の地位にとどまっていたくためには、満腹は禁物です。長く保存する場合は、つねに満腹でない充電量でとどめておくのが電池の寿命を最も長くするためにはいいそうです。いつ、突然の撮影が必要な出てくる場合もあるカメラマンとしては、いつでも満充電の体制にしておきたいところですが、大事な電池様の家庭の事情はこのようなことのように。

長期保存の場合の充電容量は諸説ありますが、満充電の場合の80%程度、という説があります。要は、腹八分目が良いようです。

また、空っぽにして放置するのも好ましくないということです。また、リチウムイオン電池は高温に保つのも良くない、ということです。

このように、まるで、生きた伴侶のように気むずかしい仲間ですが、養生しながら末永くおつきあい願うようにお伝えしておきます。 ■